馬野 展子
Umano Nobuko

真庭人
MANIWABITO

みんなの思いをつないで作る膝掛け

東日本大震災をテレビで見て「自分にできることは何か考えました」と馬野展子さん。馬野さんは、子育てをきっかけに始めた裁縫・手芸を生かして、手編みの膝掛けを被災地に届ける活動をしています。膝掛けを1枚作るのに、モチーフと呼ばれる10㌢四方のシートを毛糸で40枚編むため、1人で作るには時間がかかります。馬野さんは、一緒に膝掛けを編んでくれる仲間を、チラシや口コミで募集したそうです。「一緒に編んでくれる人の中には、震災についていろいろな思いを抱えている人もいます。1人ひとりの思いが込められたモチーフを、1枚の膝掛けとしてつないで完成させています」と、一緒に活動をしている仲間の思いを語る馬野さん。

活動当初の2011年、ラジオを通じて、宮城県石巻市の人とつながり、膝掛けやマフラーを石巻市の仮設住宅へ届けました。それから11年間、馬野さんたちは膝掛けやマフラーなどを届け続けたそうです。「受け取った人から直接お礼の電話や手紙をもらい、震災のことを忘れず、これからも私たちにできることを続けていこうと思います」と馬野さんは話してくれました。

1人でできないことも仲間と一緒に

馬野さんたちは、震災があったことを忘れないように、毎月11日に集まっているそうです。そこには、市内外から参加があり、毎回15人ほどで、膝掛けの製作などをしています。「膝掛けを編むだけでなく、毛糸を寄付してくれる人とか、この活動にこれまで関わってくれた人は、643人になります。1人だったらできないことです。この活動の思いに賛同してくれる仲間に支えられて、今があります」と馬野さんは、まっすぐな思いを話してくれました。

みんなで作った膝掛け

落合まちかど展覧会で展示もしています

馬野展子さん（開田）

2011年、東日本大震災をきっかけに、被災地へ手編みの膝掛けやマフラーなどを届ける活動を開始。今までに仲間と一緒に膝掛けやマフラーなど4,239点を作り、宮城県石巻市、倉敷市真備町地区、熊本県人吉市に届けている。

まにわびと 26 2021